

兵庫県・ハバロフスク地方

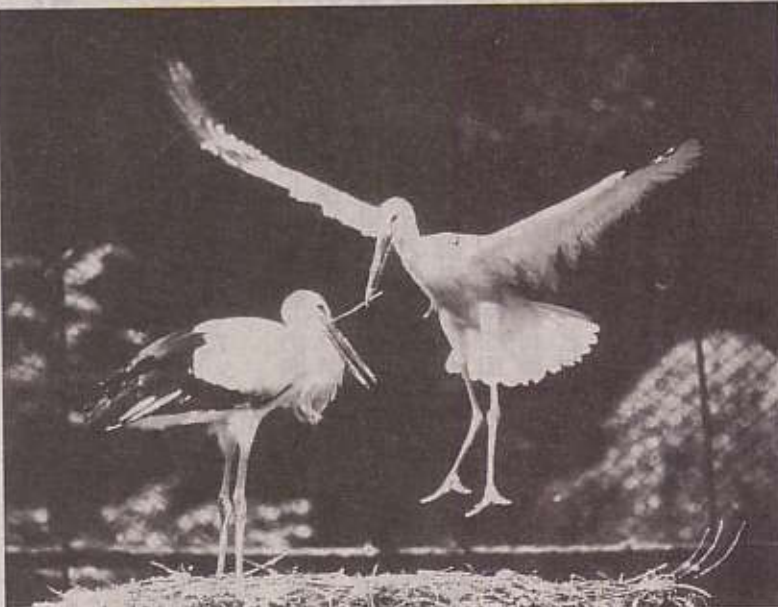
38年間の友好提携

1966年、ハバロフスク市で開催された第1回日本沿岸貿易見本市に兵庫県下の企業が出展し、その時、坂井時忠兵庫県副知事が同地を訪れたのが契機となり、1969年4月18日、兵庫県ハバロフスク地方友好提携に関する共同声明が発表されました。

それ以来、代表団の相互訪問、少年少女の交流

や民族アンサンブル(極東アンサンブル、ラータスチ、ムラタ、ベシヨールカ)の県下公演のほか、ニューリーター(1年間1名)や短期ニューリーター(2名)の受入、技術交流員(2名、医療、林業、木材加工など)や経済関係研修生(3名)の受入、経済ミツシヨンの派遣、日本語教材の贈呈、医薬品・医療機器の緊急支援(1991年)、県鳥コウノトリの保護増殖のための協力や防災分野での交流など、多方面での友好交流が進められてきました。

2001年に小泉首相が訪口した際、1991年から続いている兵庫県のニューリーターの受入が成果をあげていることが報告され、首相と歴代のニューリーターとの懇談会が開催されました。



日口友好のシンボル「兵庫県鳥コウノトリ」

18世紀に日露紛争を未然に防いだ民間外交の先駆者、高田屋嘉兵衛の出身地洲本市とティアナ号の母港、クロンシュタットの2001年7月に姉妹都市提携を結んだ。

1995年の阪神・淡路大震災の時には、被災児童27名がハバロフスク地方の少年少女キャンプに招待されました。来年には、ハバロフスクの少年少女が来県のほか、秋には民族音楽アンサンブル「コロベイニキ」の公演が予定されています。

クロンシュタットとも

1971年野生のコウノトリが姿を消しました。1985年にハバロフスクから6羽の幼鳥をプレゼントして頂いた事が大きな力となり、2005年の9月に5羽のコウノトリが自然界に放鳥されました。その放鳥式にはハバロフスク地方ポロ自然保護区のチュグニン所長をはじめ、ハバロフスクの子供たちも参加しました。現在19羽のコウノトリが野外で暮らしています。今年7月に放鳥された夫婦の間で生まれたヒナが、巣立ちを完了し、大空に舞い上がりました。地元豊岡をはじめ、多くの人がその瞬間を待ちわび、うまく飛び上がった時に、野生復帰への道を

開いたという事です。野生復帰事業が、環境問題を考える良い機会となり、学校や職場、農業者の方たちの様々な実践活動へと結びついています。岡や県も

湿地の再生をめざした円山川の整備方針をたて、台風23号からの復旧に自然との共生という考え方を取り入れた川づくりを始めています。財政がきびしい豊岡市においては、人々におき、環境改善、地域の活力を生み出すという難し

絶滅したコウノトリ 日口の協力で再び大空へ

は、大空を飛び、環境改善、地域の活力を生み出すという難し

ある仕事に、市民も行政も力を合わせています。

兵庫県日本ロシア協会 監事、豊岡市議会議員 古池 信幸